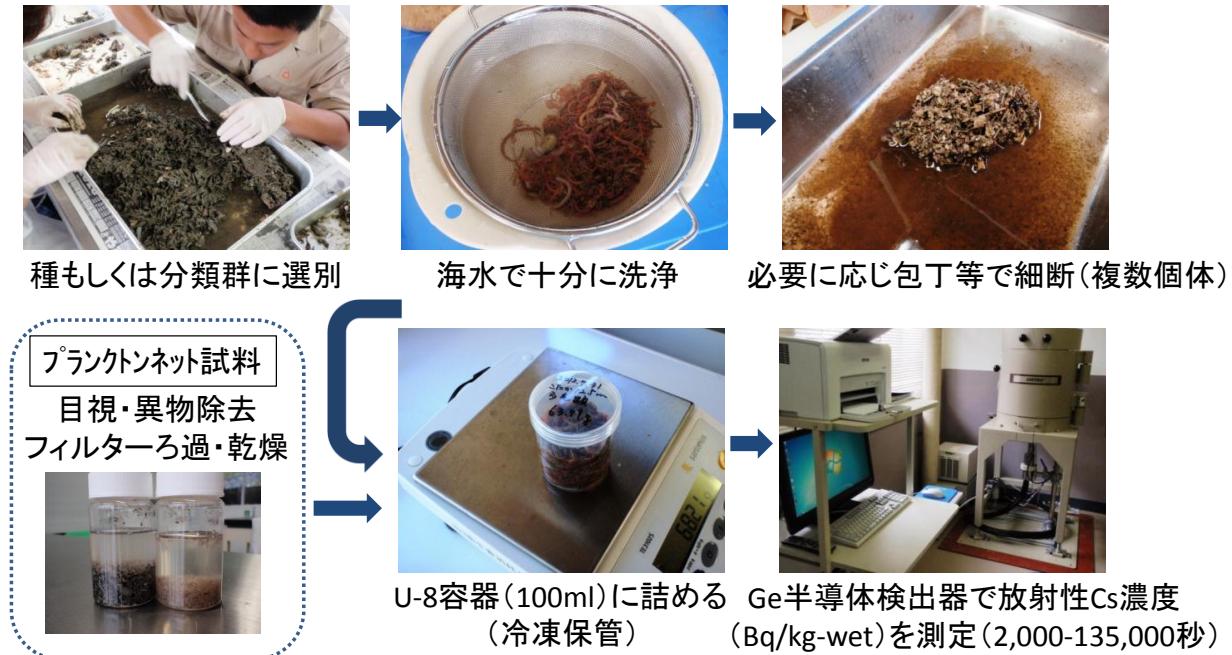


## 福島県海域の餌料生物から検出された 東京電力福島第一原子力発電所事故に起因する放射性セシウム濃度の推移

- ・福島県では、東京電力福島第一原子力発電所事故以降、魚介類の放射性セシウム（以下Cs）汚染源の一つと推測される餌料生物について、放射性Cs濃度を調査しています。
  - ・3月27日に開催された日本水産学会で、これまでの調査結果について発表しましたので、その概要をお知らせします。
  - ・本調査は、福井大学、東京海洋大学、(独)放射線医学総合研究所、(独)水産総合研究センターのご協力を得て実施しております。

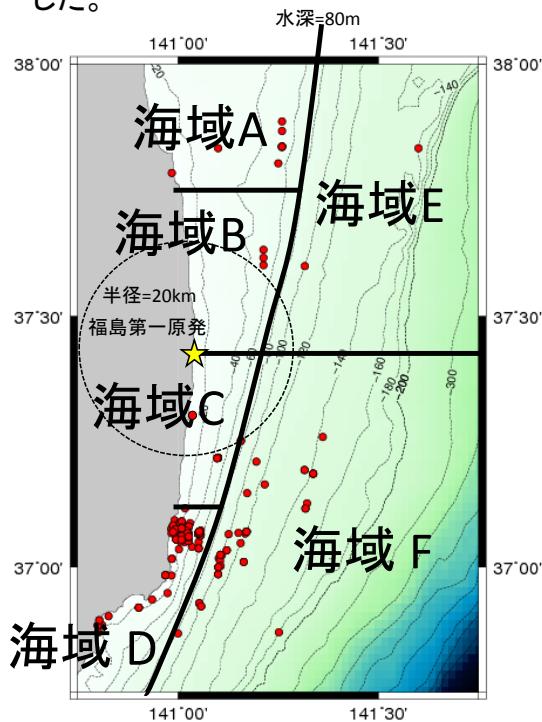
## 1.サンプル処理・放射性Cs濃度測定の流れ



## 2. 餌料生物の採取場所および放射性Cs濃度測定試料

福島県沿岸で広く餌料生物の採集を行い、2013年3月までに下表の生物について放射性Cs濃度を測定しました。

そのうち、特に試料の多いいわき海域(D海域・F海域)について、年変動などの傾向を確認しました。

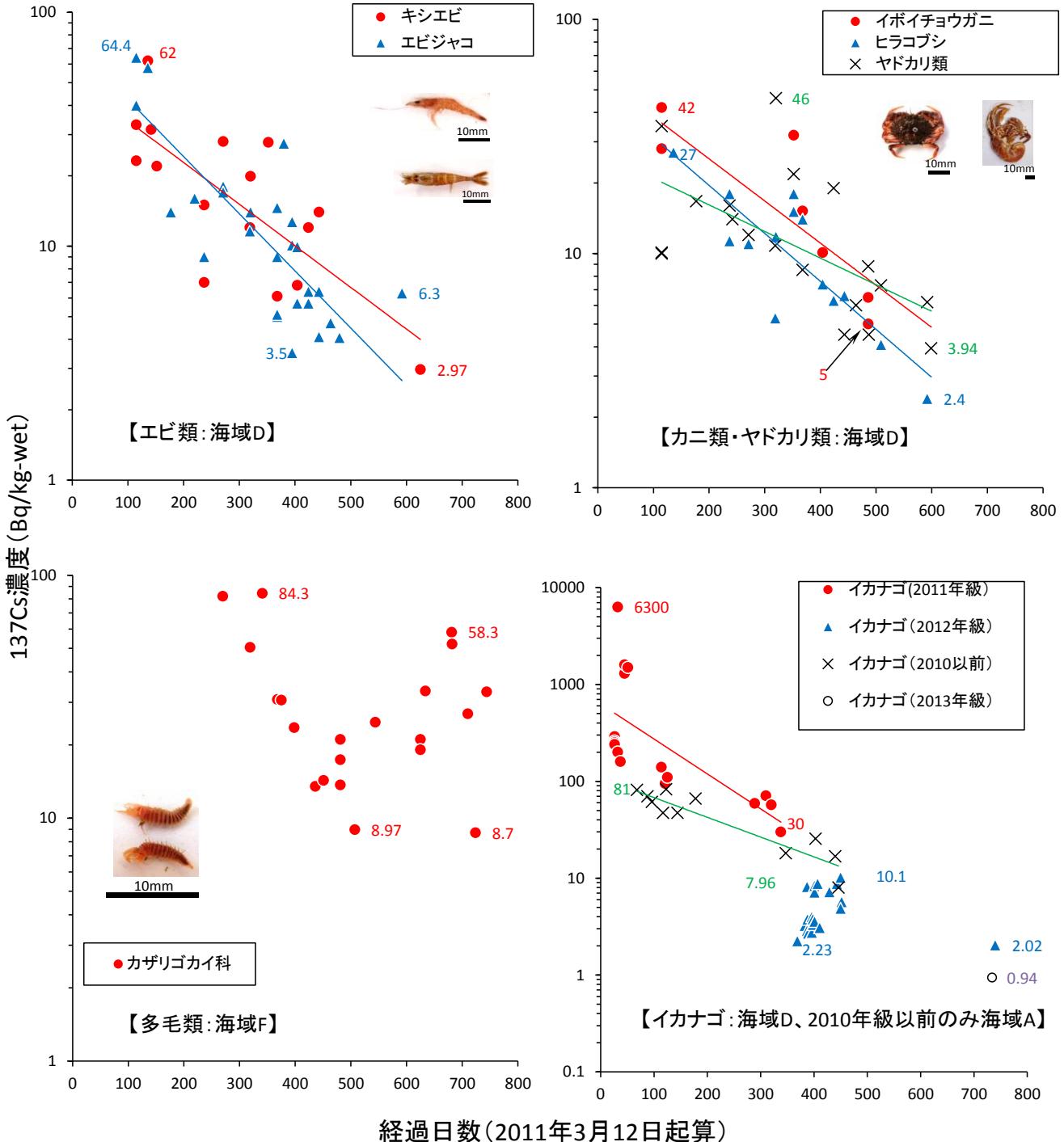


分類	採捕海域(区分)					総計	
	A	B	C	D	E		
刺胞動物	花虫綱					2 2	
	溝腹綱					1 1	
軟体動物	二枚貝綱	1				3 4	
	腹足綱(巻貝類)			14	1	15	
環形動物	多毛綱	1	2	24	2	64 93	
	シャコ目				4	4	
	アミ目	3	1	6		10	
	端脚目				1	1	
	等脚目				2	2	
甲殻類	オキアミ目	2			1	2 5	
	クルマエビ亜目	2	5	29		36	
	コエビ下目	9	4	34	1	19 67	
	アナジャコ下目				1	1	
	異尾下目	8	4	26	1	3 46	
	短尾下目	4	3	69	26	102	
	ヒトデ綱			4		4	
棘皮動物	クモヒトデ綱					1 1	
	ブンブク目					8 8	
	ホンウニ上目	11	12	24	10	3 60	
	ナマコ綱					1 1	
魚類		45	12	16	120	4 39	236
プランクトンネット入網試料		10			26	10 2	48
総計		96	28	59	370	19 175	747

### 3. 餌料生物の放射性Cs濃度( $^{137}\text{Cs}$ )の推移

代表的な餌料生物について、事故後の経過日数と放射性Cs濃度の関係を確認したところ、多くは時間経過とともに低下していました。一部の多毛類では、事故後約2年が経過してもやや高い濃度がみられました。

(図中の直線は指指数回帰を示す)



### 4.まとめ

- 福島県沖で採集した餌料生物(甲殻類・プランクトンネット試料・軟体動物・棘皮動物・多毛類・魚類)の放射性Cs濃度を測定しました。
- 餌料生物における $^{137}\text{Cs}$ 濃度は、多くの種類で時間経過とともに減少する傾向がみられました。
- 一部の多毛類では、事故後約2年が経過してもやや高い濃度がみられました。
- 事故後2年の間に、海水の $^{137}\text{Cs}$ 濃度は速やかに低下しましたが、餌料生物の $^{137}\text{Cs}$ 濃度低下は緩やかであり、低濃度ながら放射性Csが確認されました。

# 福島県沿岸における海底土壤のモニタリング調査

## 1 調査定点

福島県では、環境放射線モニタリングとして、本県沿岸の42の定点で海底土壤の放射性セシウムの濃度を測定しています(図1)。

なお、結果の詳細は水産試験場HPに掲載しています。

<http://www.pref.fukushima.jp/suisan-shiken/index.htm>

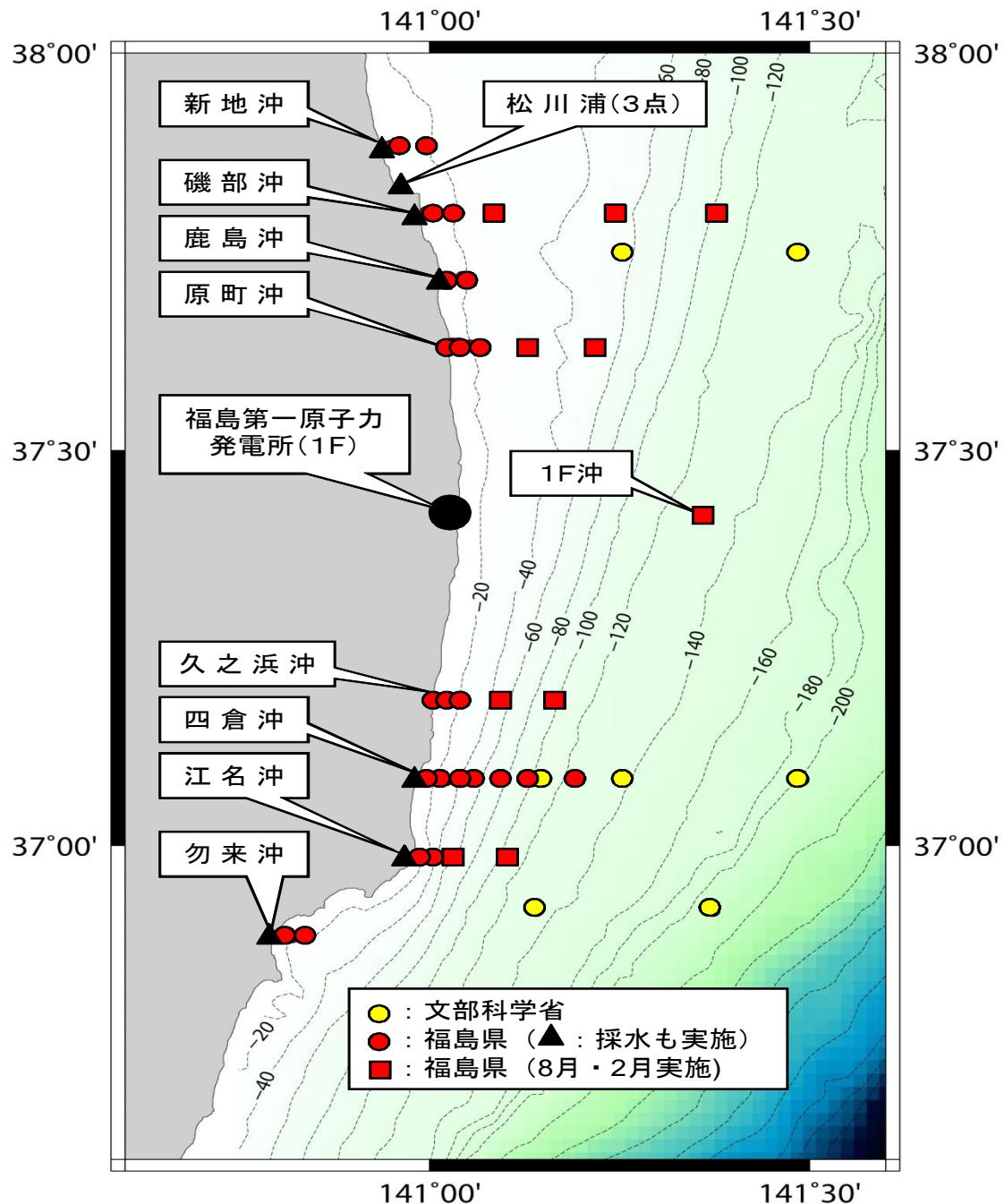


図1 海底土壤のモニタリング調査定点

## 2 いわき市四倉沖における放射性セシウムの経時変化

下表は文部科学省及び福島県が定線調査を実施しているいわき市四倉沖の放射性セシウムの経時変化です。

数値をみると、放射性セシウム濃度は時間経過とともに、当初濃度の高かった沿岸から沖合に拡散して低下していると推測されます。

海底土壤のモニタリングは今後も継続し、放射性セシウムの分布状況を把握していきます。

距岸距離 水深	放射性セシウムの合計(Bq/kg)										
	約0.5km 7m	約1km 10m	約1.7km 20m	約3.7km 30m	約6.5km 50m	約10km 75m	約13.6km 100m	約14km ※107m	約20.2km 125m	約25km ※141m	約45km ※213m
5月上旬											49
5月下旬	1,503	6,003	9,271								107
6月上旬											75
6月下旬											162
7月中旬	815	1,527	2,386	462	663	347	183		ND	74	
7月下旬	124	1,586	905								73
8月	625	933	992	1,227	1,734	851	235		306		
9月	1,142	687	943	8,189	679	470	272	370	136	95	69
10月	88	804	664	2,916	1,593	395	647	430	3,571	181	50
11月	213	465	785	794	523	486	89			72	
12月	558	441	562	820	1,123	268	131	360	136	168	63
1月	246	554	297	518	1,208	278	307			79	
2月	128	350	257	644	977	560	918	330	184	133	76
3月	372	273	170	684	927	491	638			200	
4月	304	202	212	234	620	493	177			170	
5月	268	330	225	1,561	937	487	410	370	150	233	118
6月	164	242	174	270	1,179	495	135			127	
7月	314	190	120	296	575	542	299			137	
8月	575	153	114	433	902	547	130	310	261	129	103
9月	333	177	179	551	669	447	59			261	
10月	232	289	195	246	521	380	204	310	118	117	
11月	142	143	126	626	462	198	274			167	
12月	191	149	73	649	357	351	243			171	
1月	168	126	96	233	561	210	253	157	108	88	38
2月	262	135	100	388	367	387	241			175	

※ 斜線部は文部科学省による調査

# 福島県沖における魚介類の放射能検査結果 -平成25年4月15日現在-

放射性セシウム134、137の合計値 単位:ベクレル/kg

平成25年1月～平成25年4月に採取したものの結果

グレー部分は最大が100ベクレル/kgを超えたもの

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
魚類	クロソイ	960	ND	132	23	6
	クロダイ	910	ND	129	11	1
	シロメバル	800	17	193	33	24
	マコガレイ	780	ND	59	72	9
	パパガレイ(ナメタガレイ)	610	ND	50	112	17
	スズキ	510	ND	51	40	6
	アイナメ	480	ND	85	94	25
	コモンカスベ	440	ND	113	58	22
	イシガレイ	390	ND	46	51	8
	ウスメバル	340	ND	126	19	9
	ムラソイ	300	69	144	5	3
	ヒラメ	260	ND	32	135	5
	又マガレイ	250	10	77	4	1
	マダラ	190	ND	29	113	2
	キツネメバル	180	ND	39	15	3
	マガレイ	150	ND	17	69	1
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	140	ND	17	54	3
	ケムシカジカ	140	ND	23	35	1
	ウミタナゴ	120	ND	38	8	1
	サヨリ	120	ND	5	37	1
	サブロウ	88	15	53	3	
	アカシタビラメ	87	24	57	4	
	マゴチ	84	12	40	8	
	アカガレイ	83	ND	7	71	
	クロウシノシタ	73	34	49	3	
ホシザメ	70	48	59	2		
スケトウダラ	69	ND	5	38		
ヒガンフグ	61	ND	17	13		
ムシガレイ	55	ND	9	42		
メイタガレイ	55	ND	18	13		
ショウサイフグ	54	ND	16	11		
マアナゴ	52	ND	6	41		
キンコウ	50	ND	4	32		
ヤナギムシガレイ	49	ND	6	43		
カナガシラ	36	ND	5	40		
ナガレメイタガレイ	34	ND	3	18		
コモンフグ	33	ND	16	4		
ニベ	32	ND	9	7		
シログチ	27	ND	12	9		
ユメカサゴ	23	ND	3	34		
ホウボウ	17	ND	5.368	25		

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超	
魚類	ウケグチメバル	14	14	14	1		
	チダイ	12	ND	3	7		
	シロウオ	11	ND	6	2		
	テナガダラ	10	ND	5	2		
	イシカワシラウオ	10	ND	1	74		
	サメガレイ	10	ND	0	37		
	マアジ	9	ND	1	14		
	アコウダイ	9	9	9	1		
	ミギガレイ(ニクモチ)	7	ND	0	47		
	アオメエソ(メヒカリ)	ND				11	
	アカムツ	ND				1	
	アブラガレイ	ND				4	
	アブラツノザメ	ND				1	
	イカナゴ	ND				1	
	ウマヅラハギ	ND				6	
	オオクチイシナギ	ND				6	
	カガミダイ	ND				7	
	カタクチイワシ	ND				3	
	ギス	ND				2	
	キチジ	ND				7	
	クサウオ	ND				4	
	コウナゴ	ND				38	
	ゴマサバ	ND				1	
	サッパ	ND				1	
	シラウオ	ND				1	
	シラス	ND				9	
	セトヌメリ	ND				1	
	ソウハチ	ND				5	
	トラフグ	ND				1	
	ノレソレ(マアナゴ仔魚)	ND				2	
ヒレグロ	ND				15		
ブリ	ND				1		
ホシガレイ	ND				3		
ホッケ	ND				3		
マサバ	ND				7		
マダイ	ND				2		
マツカワ	ND				10		
マトウダイ	ND				2		
マフグ	ND				12		
メダイ	ND				4		

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超	分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
イカ類	エゾハリイカ(コウイカ)	ND			2		貝類	アワビ	32	ND	2	15	
	ジンドウイカ	ND			21			エゾボラモドキ	ND			5	
	スルメイカ(マイカ)	ND			15			シライトマキバイ	ND			9	
	ヤリイカ	ND			50			チヂミエゾボラ	ND			6	
タコ類	イイダコ	ND			4			ナガバイ	ND			1	
	マダコ	ND			16			ヒメエゾボラ	ND			2	
	ミズダコ	ND			39			ホッキガイ	ND			2	
	ヤナギダコ	ND			48			モスソガイ	ND			1	
甲殻類	ケガニ	ND			15		その他	キタムラサキウニ	77	ND	17	15	
	ズワイガニ(オス)	ND			14			オキナマコ	ND			1	
	ズワイガニ(メス)	ND			12			マナマコ	ND			2	
	ヒゴロモエビ(ブドウエビ)	ND			3		海藻類	ヒトエグサ(アオノリ:養殖)	5	ND	0	10	
	ヒラツメガニ	ND			4								
	ボタンエビ	ND			1								
	ホッコクアカエビ	ND			3								

平均値において、NDは0として計算

## 海産魚介類に関する国の出荷制限等指示 平成25年4月19日現在 41種類

アイナメ	クロダイ	ヌマガレイ	マダラ
アカガレイ	ケムシカジカ	ババガレイ	マツカワ
アカシタビラメ	コモンカスベ	ヒガソフグ	ムシガレイ
イカナゴ(稚魚を除く)	サクラマス	ヒラメ	ムラソイ
イシガレイ	サブロウ	ホウボウ	メイタガレイ
ウスメバル	サヨリ	ホシガレイ	ビノスガイ
ウミタナゴ	ショウサイフグ	ホシザメ	キタムラサキウニ
エゾイソアイナメ(ドンコ)	シロメバル	マアナゴ	
キツネメバル	スケトウダラ	マガレイ	
クロウシノシタ	スズキ	マコガレイ	
クロソイ	ナガヅカ	マゴチ	
	ニベ		

# 平成 25 年度 第 1 回 東北海区海況予報 (抜粋)

4 月 23 日に独立行政法人水産総合研究センターより東北海区の海況予報が発表されましたので、概略を掲載いたします。

## 今後の見通し(平成 25 年 5 月～6 月) のポイント

- ・近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～北偏で推移する。
- ・親潮第 1 分枝の張り出しが平年並み～南偏で推移する。
- ・三陸はるか沖合の暖水塊は停滞する。

## 今後の見通し(平成 25 年 5 月～6 月) (注)FRA-ROMS システムによる結果

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～北偏で推移し、親潮第 1 分枝の張り出しが平年並み～南偏で推移する。また、三陸はるか沖合の暖水塊は停滞する。

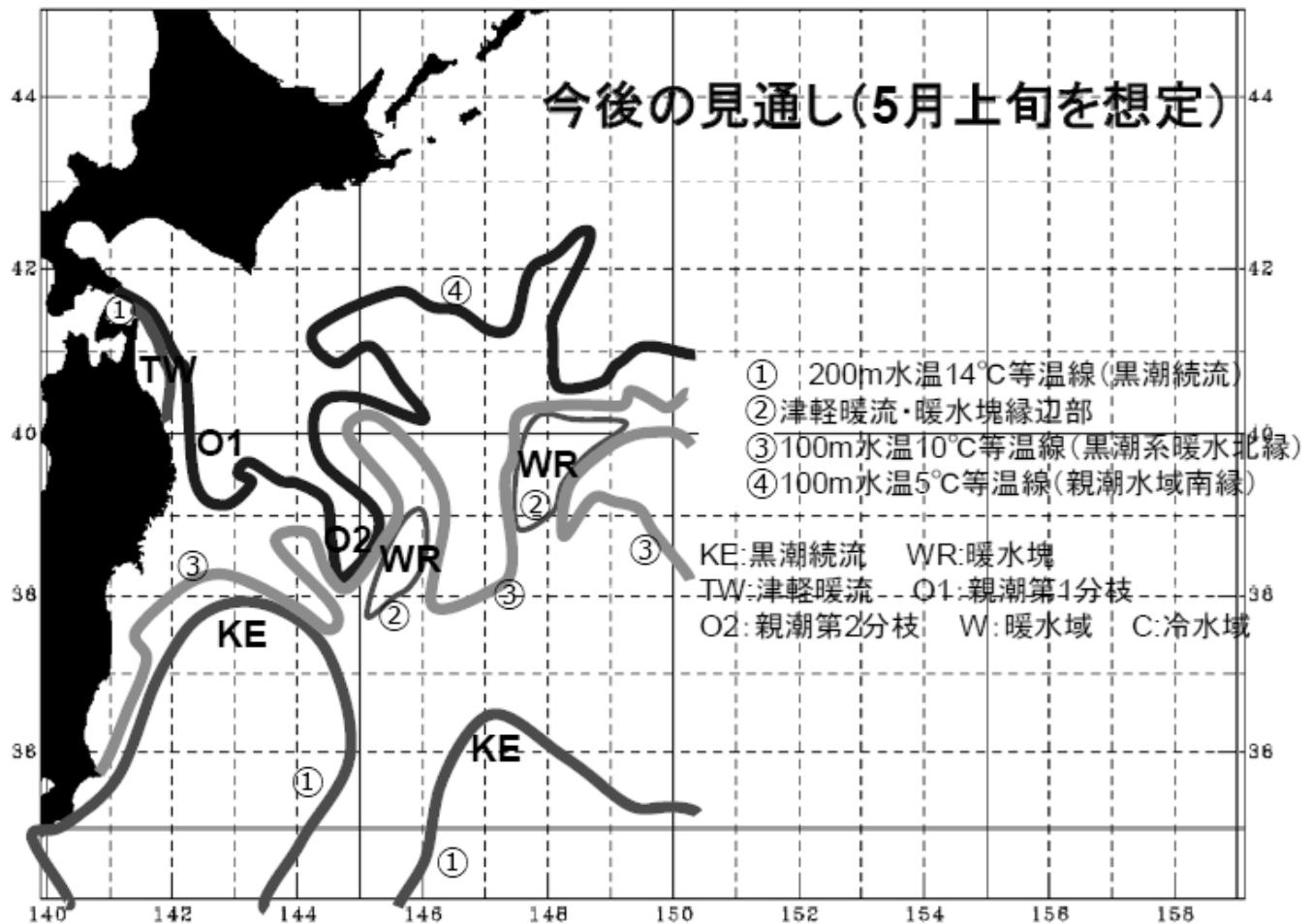
## 海況の経過(2013 年 2 月～2013 年 3 月)の特徴 (注)FRA-ROMS システムによる結果

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏で推移し、親潮第 1 分枝の張り出しが平年並み～やや南偏で推移した。また、三陸はるか沖合の暖水塊は停滞した。

## 現況(2013 年 4 月上旬)の特徴 (注)FRA-ROMS システムによる結果

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏であり、親潮第 1 分枝の張り出しが平年並みである。また、三陸はるか沖合に暖水塊が西進している。

(注)この海況予報は、独立行政法人水産総合研究センターにより開発され、2012 年 5 月より運用を開始した FRA-ROMS システムを用いて作成している。



(海洋漁業部)

# 福島県沖における魚介類の放射能検査結果 -平成25年5月9日現在-

放射性セシウム134、137の合計値 単位:ベクレル/kg

平成25年2~5月に採取したものの結果

グレー部分は最大が100ベクレル/kgを超えたもの

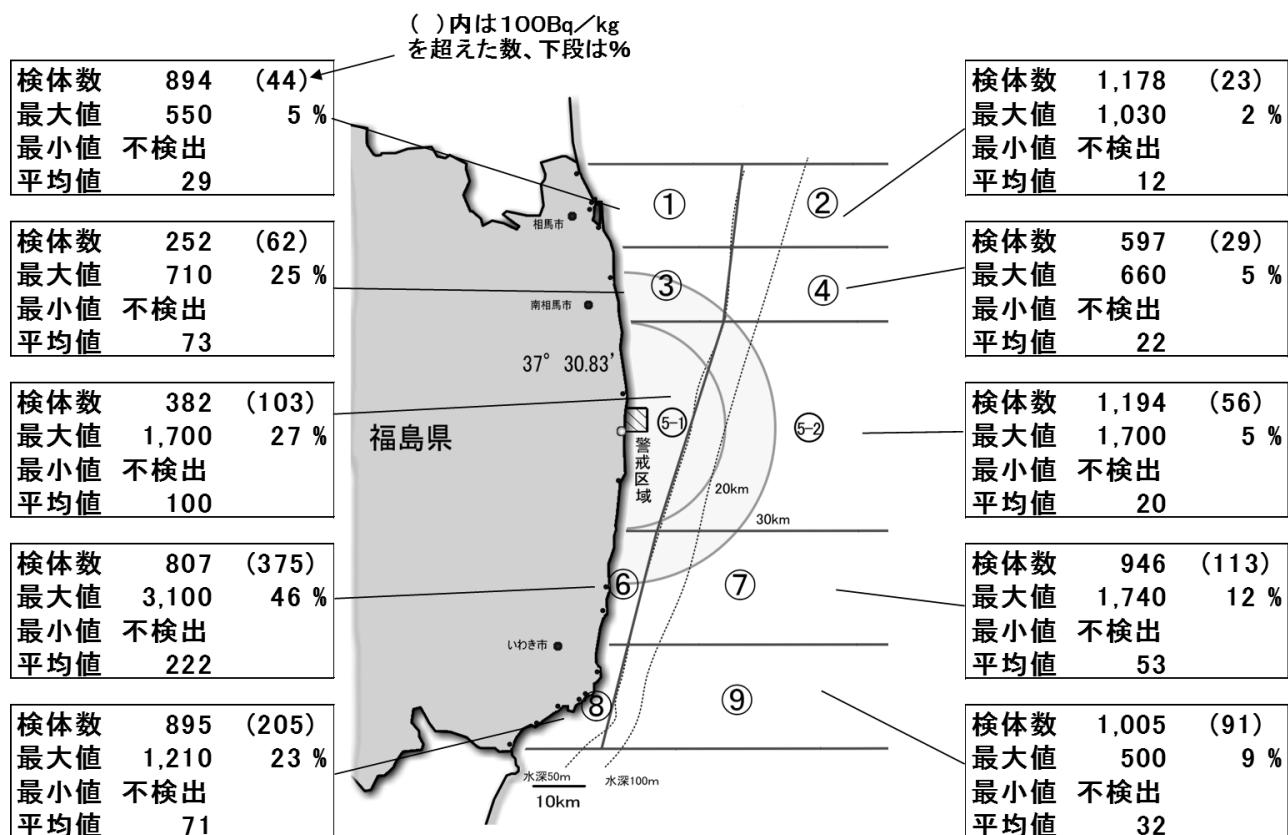
分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
魚類	アイナメ	1,700	ND	94	83	22
	クロソイ	960	ND	99	25	5
	クロダイ	910	ND	158	8	1
	マコガレイ	780	ND	50	65	7
	シロメバル	760	23	190	28	21
	スズキ	510	ND	83	29	7
	パパガレイ(ナメタガレイ)	470	ND	38	108	12
	イシガレイ	390	ND	54	42	6
	ウスメバル	340	ND	97	15	6
	コモンカスベ	330	ND	94	51	14
	キツネメバル	310	ND	56	15	4
	ムラソイ	300	69	146	6	4
	ヌマガレイ	250	10	77	4	1
	ヒラメ	230	ND	30	120	3
	マダラ	190	ND	25	107	1
	マガレイ	150	ND	16	56	1
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	140	ND	15	55	3
	ウミタナゴ	120	ND	44	4	1
	サヨリ	120	ND	4	37	1
	マゴチ	110	12	48	7	1
	アカシタビラメ	87	24	56	2	
	ケムシカジカ	87	ND	19	35	
	ムシガレイ	74	ND	6	37	
	クロウシノシタ	73	34	54	2	
	ホシザメ	70	70	70	1	
	サブロウ	56	56	56	1	
	マアナゴ	52	ND	6	31	
	ヤナギムシガレイ	49	ND	5	42	
	アカガレイ	47	ND	5	68	
	キンアンコウ	38	ND	2	29	
	ショウサイフグ	37	ND	11	8	
	メイタガレイ	37	ND	14	12	
	ヒガシフグ	36	ND	9	8	
	カナガシラ	34	ND	4	38	
	ナガレメイタガレイ	34	ND	4	12	
	ホウボウ	34	ND	6	17	
	コモンフグ	33	ND	11	4	
	ニベ	32	9	17	3	

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
魚類	シログチ	27	ND	10	4	
	スケトウダラ	27	ND	3	37	
	ユメカサゴ	23	ND	3	38	
	イシカワシラウオ	19	ND	1	75	
	ホシガレイ	14	ND	5	3	
	ウケグチメバル	14	14	14	1	
	チダイ	12	ND	7	3	
	マダイ	12	ND	6	2	
	シロウオ	11	ND	6	2	
	テナガダラ	10	10	10	1	
	サメガレイ	10	ND	0	48	
	アコウダイ	9	9	9	1	
	ミギガレイ(ニクモチ)	8	ND	0	52	
	アオメエソ(メヒカリ)	ND			14	
	アブラガレイ	ND			4	
	アブラツノザメ	ND			2	
	イカナゴ	ND			1	
	ウマヅラハギ	ND			2	
	オオクチイシナギ	ND			1	
	カガミダイ	ND			2	
	カタクチイワシ	ND			3	
	ギス	ND			4	
	キチジ	ND			5	
	クサウオ	ND			1	
	コウナゴ	ND			50	
	サッパ	ND			1	
	シラウオ	ND			1	
	シラス	ND			13	
	セトヌメリ	ND			1	
	ソウハチ	ND			7	
	トラフグ	ND			1	
	ヒレグロ	ND			21	
	ホッケ	ND			2	
	マアジ	ND			7	
	マサバ	ND			5	
	マツカワ	ND			8	
	マフグ	ND			7	
	メダイ	ND			3	

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
イカ類	エゾハリイカ(コウイカ)	ND		5		
	ジンドウイカ	ND		21		
	スルメイカ(マイカ)	ND		6		
	ヤリイカ	ND		44		
タコ類	イイダコ	ND		1		
	マダコ	ND		5		
	ミズダコ	ND		38		
	ヤナギダコ	ND		57		
甲殻類	ケガニ	ND		18		
	ズワイガニ(オス)	ND		9		
	ズワイガニ(メス)	ND		9		
	ヒゴロモエビ(ブドウエビ)	ND		1		
	ヒラツメガニ	ND		3		
	ボタンエビ	ND		1		
	ホッコクアカエビ	ND		1		

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
貝類	アワビ	32	ND	2	14	
	エゾボラモドキ	ND		5		
	シライトマキバイ	ND		10		
	チヂミエゾボラ	ND		4		
	ナガバイ	ND		1		
	ヒメエゾボラ	ND		1		
その他	ホッキガイ	ND		1		
	キタムラサキウニ	45	ND	9	14	
	オキナマコ	ND		4		
海藻類	マナマコ	ND		2		
	ヒトエグサ(アオノリ)(養殖)	21	ND	2	13	
	マツモ	3	3	3	1	
	アラメ	ND		1		
	コンブ	ND		1		
	ヒジキ	ND		1		
	ワカメ	ND		1		

平均値において、NDは0として計算



### 魚介類のエリア別の検査結果概要 (全魚種 H24.1.1～H25.5.1)

数値は $^{134}\text{Cs}$ と $^{137}\text{Cs}$ の合計  
平均値においてNDは0として計算

(漁場環境部)

## カツオ水揚げ情報

小名浜港にてカツオの初水揚げがありました。水揚げ状況、魚体測定の結果を掲載いたします。

水揚港:小名浜港

漁獲月日:平成 25 年 5 月 15 日(水)

水揚月日:平成 25 年 5 月 16 日(木)

漁獲位置:八丈沖 34-08N, 142-08E, 20.0°C

※現在のまき網・竿釣の主漁場付近

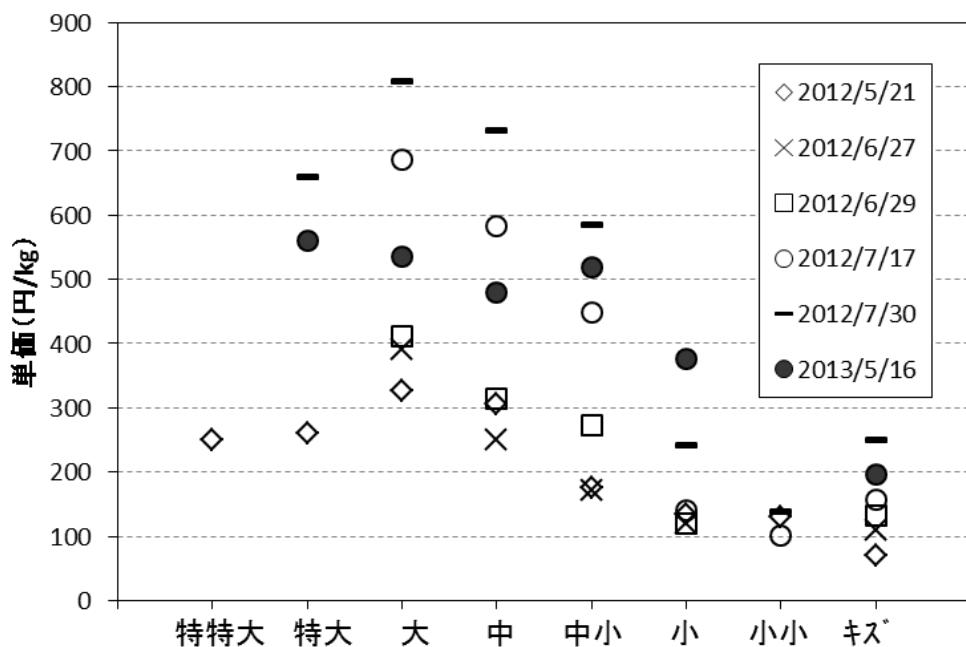
水揚漁船:第 22 寿和丸

漁獲量:カツオ約 12 トン(ビンナガ・メハチ 14 トン)

## 平均単価

銘柄「大」560 円/kg が最高値で、カツオ全体では 492 円/kg でした。

ちなみに、昨年同期(2012/5/21)の平均値は 160 円/kg で、昨年平均は 301 円/kg でした。

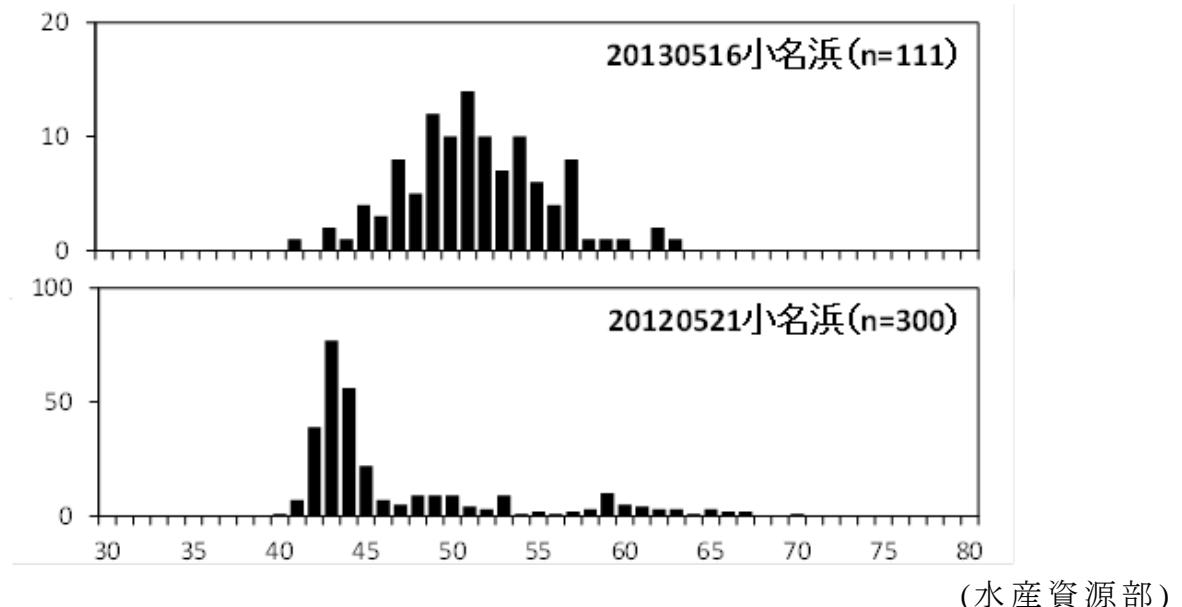


## 魚体測定結果

51cm、3.0kg 前後が主体でした。

昨年同期の漁獲物(下図下段)と比較すると、昨年の小型群(44cm 台)より大きめでした。

横軸:cm(尾叉長) 縦軸:頻度(尾)



## 現在、福島県内で貝毒が発生しています

平成 25 年 5 月 13 日に小名浜港(いわき市)で採捕したムラサキイガイから規制値(4.0MU/g)を超える 9.2MU/g の麻痺(まひ)性貝毒が検出されました。

平成 25 年 5 月 16 日よりムラサキイガイの採捕及び出荷の自主規制並びにムラサキイガイを捕食するトゲクリガニ及びイシガニの出荷自粛を要請しています。

※麻痺性貝毒 1MU(マウスユニット)/g とは、体重 20g のマウスを 15 分間で致死させる毒量。

(漁場環境部)

## 24 年の海面漁業漁獲高統計を発行しました

平成 24 年の福島県海面漁業漁獲高統計が発行されました。詳細は福島県水産課 HP を御覧ください。

本統計は、毎年 1 月 1 日～12 月 31 日の期間に、海面漁業を営んで得られた漁獲物について、県内漁業協同組合に水揚げされたものを自港船、他港船を問わず全てを対象として集計したものです(属地統計)。

(水産資源部)

# 平成 24 年 5 月 海洋観測結果

平成 25 年 5 月 9、16、22 日に、漁業調査船「こたか丸」で定線観測を実施しましたので、結果についてお知らせいたします。

定線	北緯	東経
塩屋埼	37-00N	141-02E～142-00E
富岡	37-25N	141-05E～142-00E
鵜ノ尾埼	37-50N	141-02E～142-00E

## 1 水温の水平分布 (図 1、2)

表面水温は 8～14°C 台、100m 深水温は 6～8°C 台でした。

表層水温をみると、富岡、鵜ノ尾埼の 141-30E～142-00E が 8°C 台となっていた反面、塩屋埼の 141-36E 付近に 14°C 台となっており、37-00N～37-30N で潮目が形成されていたことが窺えました。100m 深では定線間で大きな水温の差は認められませんでした。

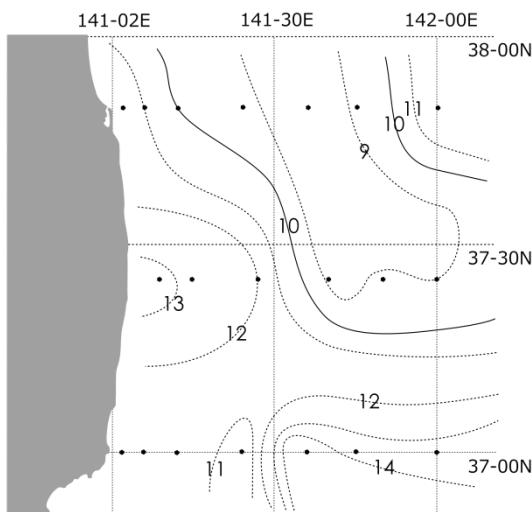


図1 水平水温(表層:°C)

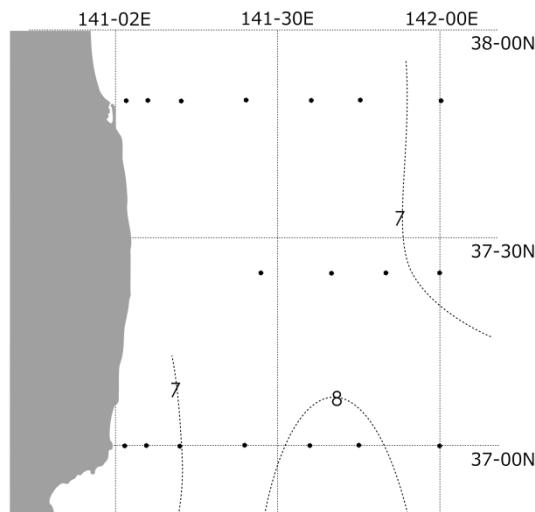


図2 水平水温(100m深:°C)

## 2 水温の鉛直分布 (図 3～5)

100m 深では塩屋埼で 6～8°C 台、富岡、鵜ノ尾埼では 6～7°C 台、300m～400m では、塩屋埼は 3～6°C 台、富岡は 2～4°C 台、鵜ノ尾埼は 3～6°C 台が分布していました。

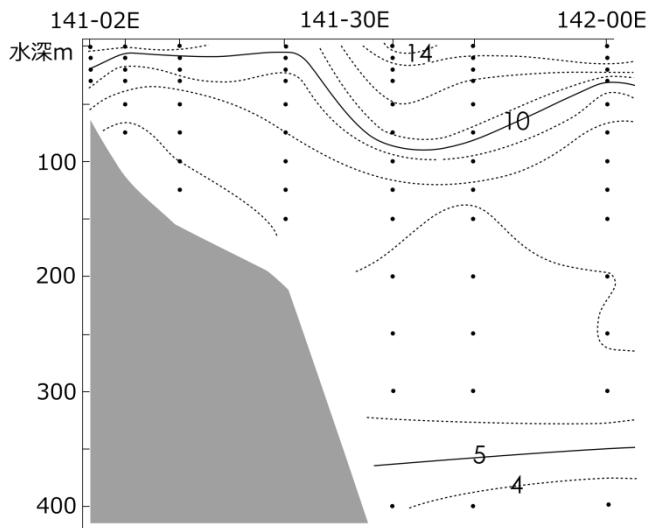


図3 鉛直水温(塩屋崎:°C)

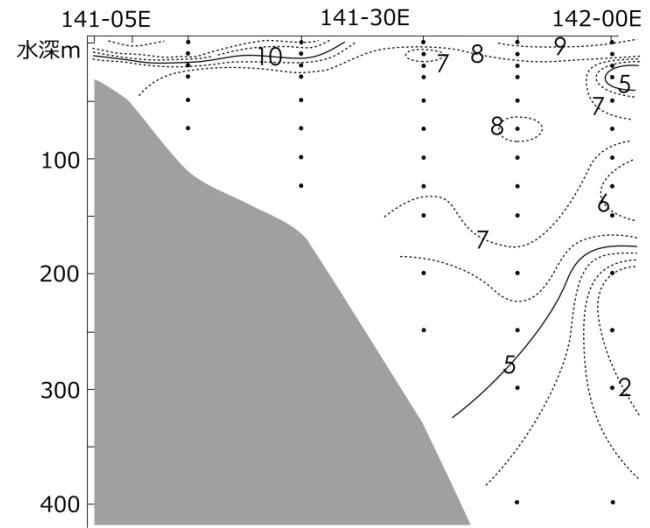


図4 鉛直水温(富岡:°C)

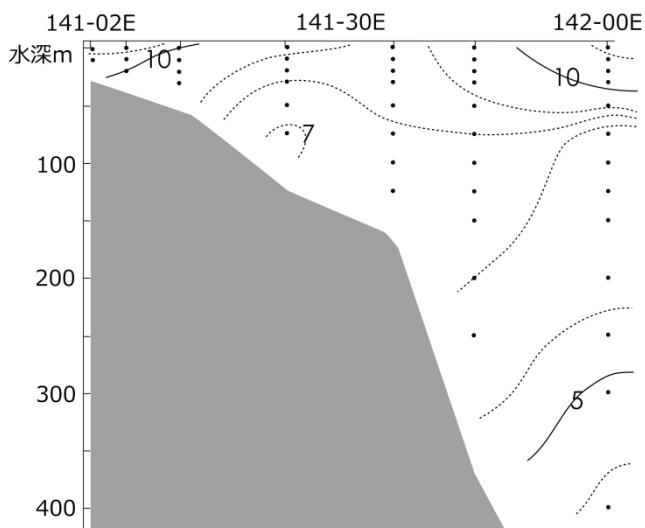


図5 鉛直水温(鶴ノ尾崎:°C)

### 3 水温の平年差

表面水温は全体で平年よりやや低め、塩屋崎は平年並み、富岡、鶴ノ尾崎は平年よりやや低めでした。

100m 深水温は全体で平年並み、塩屋崎、富岡、鶴ノ尾崎とも平年並みでした。

### 4 今後の見通し(1か月予測)

6月は海域全体で「平年並み」になると予想されました\*。

\*:従来からの海洋観測結果を用いて主成分分析を行い、ここから得られた海況の変動要因に対して自己回帰分析を行うことで水温を予測した。

(海洋漁業部)

# 平成 24 年 5 月 海洋観測結果(塩分濃度)

平成 25 年 5 月 9、16、22 日に、漁業調査船「こたか丸」で定線観測を実施しましたので、塩分濃度の観測結果についてお知らせいたします。

定線	北緯	東経
塩屋埼	37-00N	141-02E～142-00E
富岡	37-25N	141-05E～142-00E
鵜ノ尾埼	37-50N	141-02E～142-00E

## 1 塩分の水平分布 (図 1、2)

表面付近(10m 深)の塩分(PSU)は 32.9～34.3 台、100m 深では 33.6～34.0 台でした。表層付近では、富岡定線が 32.9～33.3 台と低めだった反面、塩屋埼では 33.4～34.3 台、鵜ノ尾埼では 33.2～34.1 台と比較的高めでした。

100m 深では定線間で大きな塩分の差は認められませんでした。

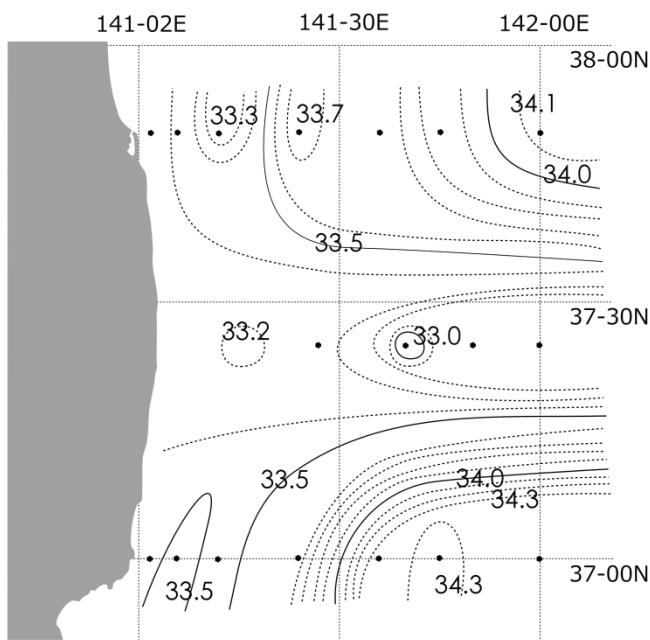


図1 水平塩分(10m深:PSU)

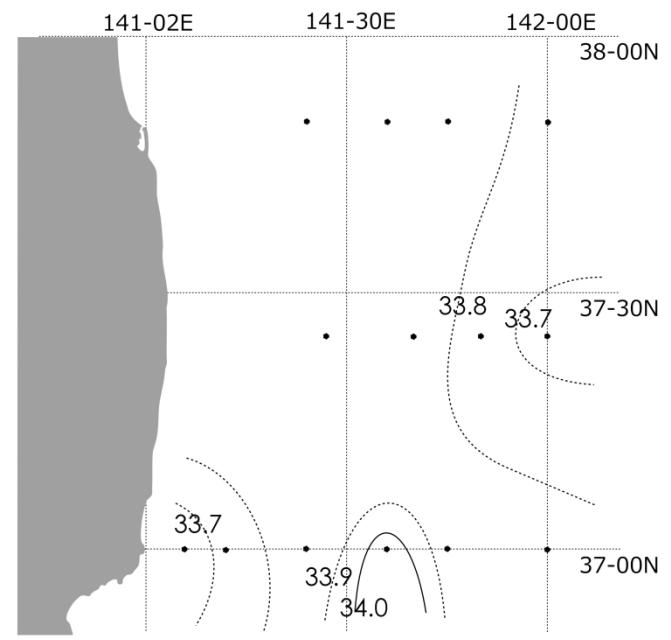


図2 水平塩分(100m深:PSU)

## 2 塩分の鉛直分布 (図 3~5)

100m 深では塩屋崎で 33.6~34.0 台、富岡では 33.6~33.8 台、鵜ノ尾崎では 33.7~33.8 台が分布していました。

300m~400m では、塩屋崎は 33.5~33.8 台、富岡は 33.6~33.9 台、鵜ノ尾崎は 33.6~33.8 台が分布していました。

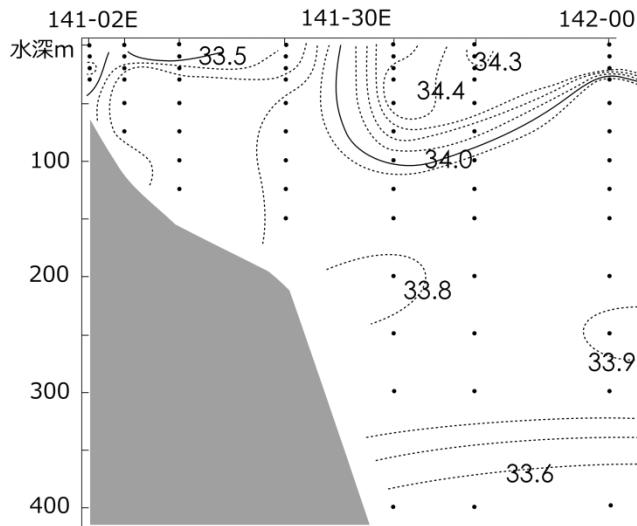


図3 鉛直塩分(塩屋崎:PSU)

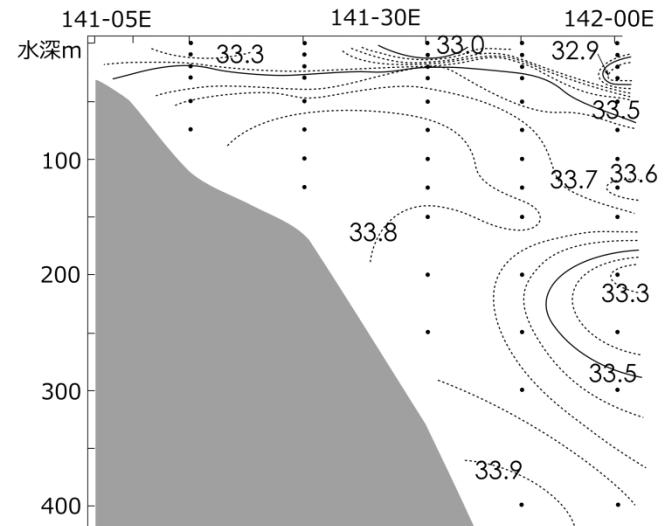


図4 鉛直塩分(富岡:PSU)

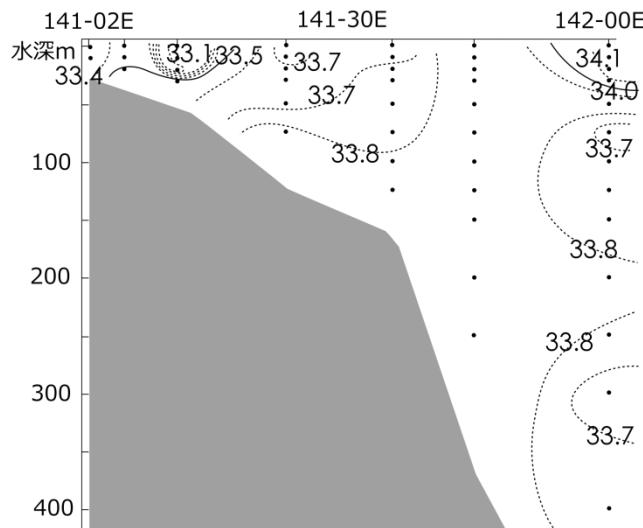


図5 鉛直塩分(鵜ノ尾崎:PSU)

## 福島県水産試験場研究報告 第 16 号が発行されました

5 月 28 日に最新号(第 16 号)が当場 HP にアップされました。過去の分も含め、閲覧、ダウンロード(pdf ファイル)できます。どうぞ御覧ください。

(海洋漁業部)

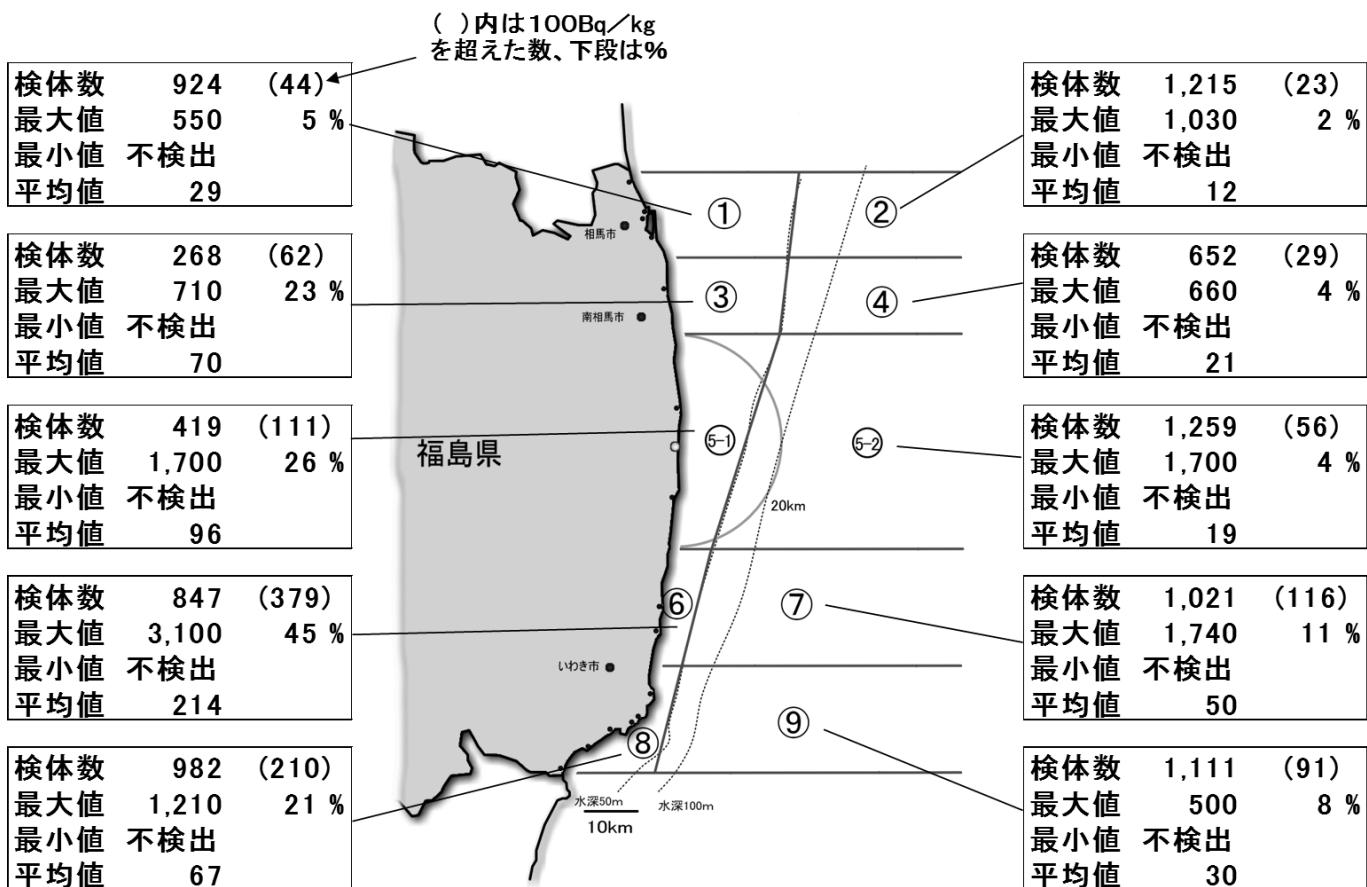
## 福島県沖における魚介類の放射能検査結果 (平成 25 年 2~5 月に採取)

放射性セシウム 134、137 の合計値 単位: ベクレル/kg

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
イカ類	エゾハリイカ (コウイカ)	ND		5		
	ジンドウイカ	ND		22		
	スルメイカ (マイカ)	ND		4		
	ヤリイカ	ND		33		
タコ類	イイダコ	ND		1		
	マダコ	ND		5		
	ミズダコ	ND		34		
	ヤナギダコ	ND		59		
甲殻類	ガザミ	ND		1		
	ケガニ	ND		18		
	ズワイガニ (オス)	ND		4		
	ズワイガニ (メス)	ND		4		
	ヒラツメガニ	ND		3		

平均値において、NDは0として計算

分類	魚種	最大	最小	平均	検査回数	100超
貝類	アワビ	ND			22	
	エゾボラモドキ	ND			6	
	シライトマキバイ	ND			9	
	チヂミエゾボラ	ND			3	
	ヒメエゾボラ	ND			1	
その他	ホッキガイ	ND			1	
	キタムラサキウニ	45	ND	7	13	
	オキナマコ	ND			8	
海藻類	マナマコ	ND			3	
	ヒトエグサ(アオノリ)(養殖)	21	ND	2	13	
	アラメ	3	3	3	1	
	コンブ	ND			1	
	ヒジキ	ND			1	
	ワカメ	ND			1	



## 魚介類のエリア別の検査結果概要 (全魚種 H24.1.1～H25.5.31)

数値は<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csの合計  
平均値においてNDは0として計算

(漁場環境部)

## サバ類水揚げ情報

小名浜港にてサバ類の水揚げがありました。水揚げ状況、魚体測定の結果(混獲のマイワシを含む)を掲載いたします。

水揚港:小名浜港

水揚月日:平成25年6月11日(火)

漁獲位置:日立市沖 36-38N, 141-23E, 19.4-19.6°C

水揚漁船:第18共徳丸、第28共徳丸

漁獲量:約54トン

単価:55円/kg



## マサバ、ゴマサバ比

尾叉長(\*1)に対する第一背びれ基底長(第一～第九軟条)の割合からマサバとゴマサバを判別しました。141尾中、マサバ137尾、ゴマサバ4尾で、大半をマサバが占めました。

(\*1:上顎先端から尾鰭中央のへこみまでの長さ)

## マサバ魚体測定結果

マサバ137尾の尾叉長組成を図1、尾叉長-体重関係を図2に示しました。

尾叉長の平均は26.4cmで22.8-35.4cmの範囲でした。体重の平均は202.6gで123.5-490.5gの範囲でした。

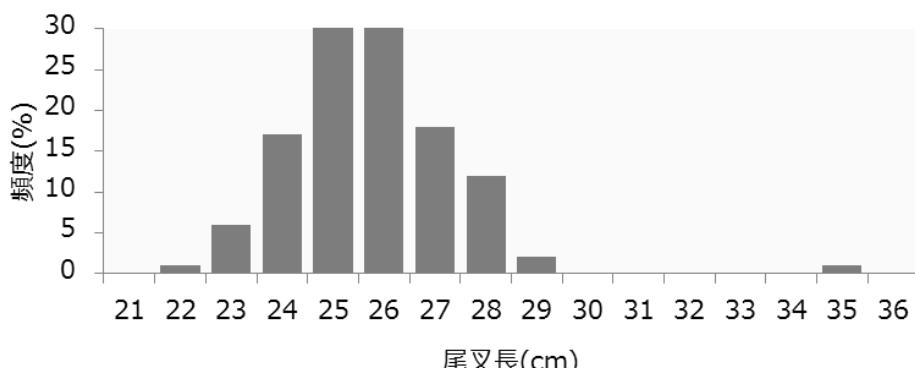
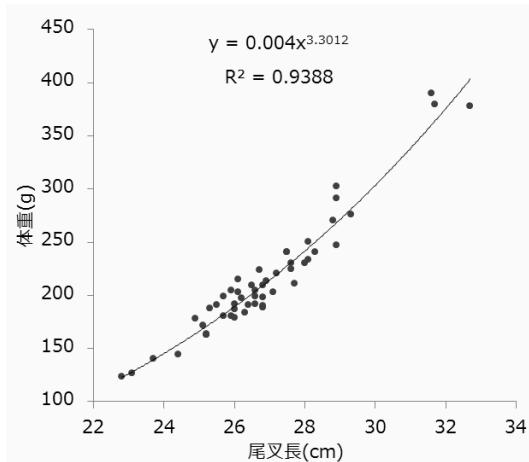


図1 マサバ尾叉長組成

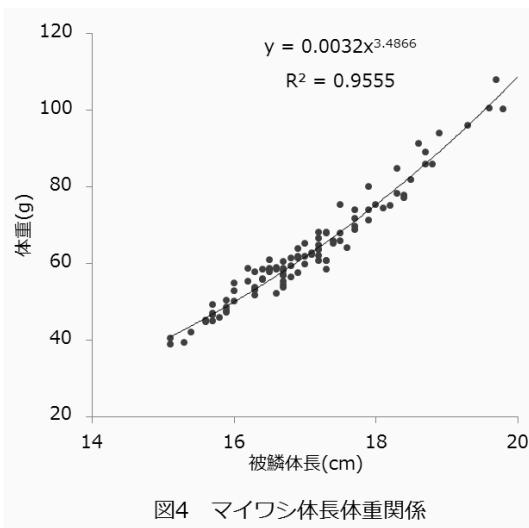
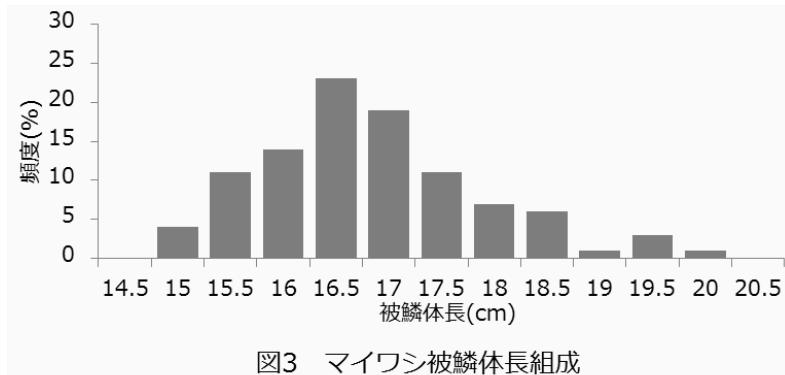


## マイワシ魚体測定結果

混獲されていたマイワシのうち 100 尾の被鱗体長(\*2)組成を図 3、体長-体重関係を図 4 に示しました。

被鱗体長の平均は 17.1cm で 15.1-20.3cm の範囲でした。体重の平均は 63.6g で 38.8~116.3g の範囲でした。

(\*2:上顎先端から鱗で覆われた部分の後端までの長さ)



(海洋漁業部)